

## 第2期広島市立大学塾活動報告【5月22日】

国際学部国際学科2年  
丸井 皐

今回の市大塾では、広島経済大学の岡本貞雄教授からお話を伺いました。2月下旬に行われた沖縄研修で、我々広島市立大学塾も岡本ゼミナール主催の「オキナワを歩く」に参加させていただいたということもあり、岡本先生が活動に対して抱く思いを知って、塾生全員がより一層胸を熱くさせられたでしょう。私自身、沖縄研修に参加できなかった身として、岡本先生から語られる「オキナワを歩く」という活動に至った経緯や10年以上活動を続けてこられた先生の思いを知り、改めて「戦争」や「死」に対して真剣に考えること、そして実際にその地を歩きながら五感で感じながら当時について考えるということの重要性を認識しました。

様々なお話をしてくださった中でも、岡本先生が「自己を見つめる」ということは「平和について考える」ことだと授業の冒頭でおっしゃっていたことが強く印象に残っています。岡本先生は仏教学の専門で坐禅に精通していらっしゃるというお話も伺いました。坐禅を通し、自己を見つめることが「いのちを見つめる」という活動に繋がっていったそうです。何気なく日々が過ぎ去っていく中で、まずは自分自身を振り返る時間が私自身、そして一人一人の人間にとって大切なことなのだと気付かされました。これから生きる若い世代として、戦争体験をどのように後世に伝えていくべきか、また世界平和のために何ができるのかを一人一人が自問自答し、行動に移していかなければならないと思いました。

